

## 3) 旧九幡港常夜灯の歴史的価値について



国土を**整**え、全力で**備**える

国土交通省  
中国地方整備局

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism  
Chugoku Regional Development Bureau

# 吉井川河口の旧九幡港常夜灯について

- 吉井川の流域開発は岡山三川の中で最も早く、出雲地方と近畿地方を結ぶ交通の要路となり、高瀬舟の利用と相まって流域は大いに繁栄した。吉井川下流の要所に点在する常夜灯や西大寺会陽により、当時の繁栄を偲ぶことができる。
- 旧九幡港常夜灯は、瀬戸内海から児島湾、吉井川への航路を示した重要な歴史的資産であるが、吉井川河口の堤防強化に伴い、令和3年度より解体保存しており、復旧方法等が決定次第、速やかに復旧することを予定している。

## <位置図(工事前)>



## <旧九幡港常夜灯(工事前)>



## <解体保存の状況>



## <旧九幡港常夜灯の概要>

- ・全高約8.5m（本体高さ約6.3m）で、花崗岩の切石が主体。
- ・昭和21年、平成2年に修復された記録がある。
- ・外観は優雅で、岡山県内で匹敵するものは3基しかないと言われている。
- ・明治末頃まで菜種油で毎日点灯していたが、その後、電球式に改修された。
- ・南海地震(S21)で倒壊・修復後は使用されていない。



基礎石や本体の石積みは丁寧に付番して解体保存している。

## <西大寺会陽の概要>

- ・西大寺観音院で毎年開催される西大寺会陽は、繁栄時の吉井川を偲ぶことができる。



# 吉井川下流に現存する常夜灯について

○吉井川下流の沿川には、**主要な常夜灯として9箇所(10基)**が現存。**江戸時代から明治時代にかけて設置されたものが多く、航路の安全対策や船渡しの目印**などを目的として利用され、**高瀬舟の往来があつた昭和初期まで利用**されていた。

○これらの常夜灯は、**複数の常夜灯が対で機能**していたものもあり、**常夜灯群として現存**していることで、**歴史的な価値が高いもの**となっている。

## <吉井川下流に現存する常夜灯の位置図>

観音院常夜灯

常夜灯(河本)

牛窓往來の舟渡し

乙子常夜灯

十番常夜灯

金岡湊常夜灯

祇園神社内常夜灯 2基

旧九幡港常夜灯

九幡常夜灯

※工事前(解体保管中)

# 吉井川下流に現存する常夜灯について

## <吉井川下流に現存する常夜灯の施設状況等>

名称	旧九幡港常夜灯	九幡常夜灯	十番常夜灯	金岡湊常夜灯	(西大寺観音院)	(河本)	(祇園神社内1)	(祇園神社内2)	乙子常夜灯	牛窓往來の舟渡し
施設状況 (現況写真)										
設置時期	幕末～ 明治初期 (推定)	明治6年 (1873年)	寛政6年 (1794年)	文化2年 (1805年)	文献等 記載なし	天保7年 (1836年)	文政7年 (1824年)	文政10年 (1827年)	明治7年 (1874年)	不明
文化財登録 近代土木遺産	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし
県近代化遺産	○	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	指定なし	○	指定なし
修復状況	・昭和21年、平成2年、修理復元。 ・令和3年度より、 <b>堤防強化工事</b> のため解体保管中。	・堤防整備に伴い移設。	・堤防整備に伴い移設。	文献等 記載なし	文献等 記載なし	・堤防整備に伴い移設。	・堤防整備に伴い移設。	・堤防整備に伴い移設。	・堤防整備に伴い移設。 ・宝珠は鳥取県西部地震(平成2年)で所在不明になったため、 <b>新たに復元</b> 。	・堤防整備に伴い移設。
時代背景	・旧九幡常夜灯と幸島外波及び小串の灯籠の3箇所が相対して、瀬戸内海から児島湾・吉井川への航路を示していた。		・十番常夜灯と乙子常夜灯は対で機能し、吉井川の航行の安全、牛窓街道南回りの乙子渡しの目印とされていた。	・江戸時代から昭和初期まで蔵元のあった金岡湊は高瀬舟の寄港により賑わった。	文献等 記載なし	文献等 記載なし	文献等 記載なし	文献等 記載なし	・十番常夜灯と乙子常夜灯は対で機能し、吉井川の航行の安全、牛窓街道南回りの乙子渡しの目印とされていた。	・舟渡し(牛窓街道)の目印。

・括弧書きの名称は、固有名称が不明のもの。  
 ・十番常夜灯と乙子常夜灯の時代背景は“九幡を歩いてふるさとの文化遺産を知ろう(岡山市ウェブサイト)”を参考。

# 北前船の寄港地 西大寺地区について

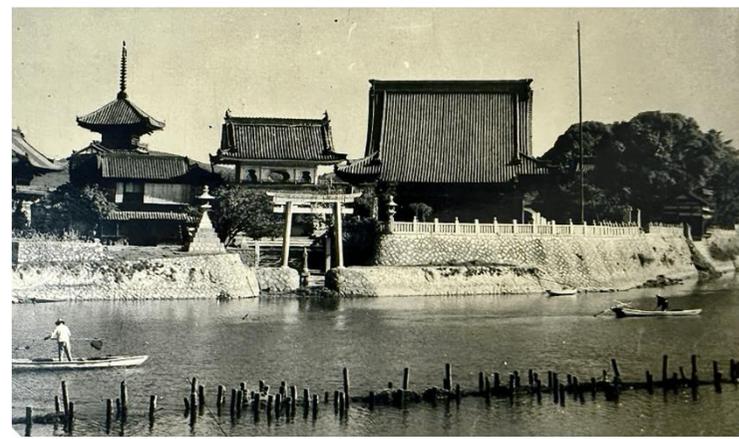
- 岡山市西大寺地区は海と川の水上交通の中継地で、**高瀬舟により内陸地域との物資が流通する河港**と、瀬戸内海沿岸のほか**北前船の寄港地**として、全国各地から物資が集まる内海の港町として発展した。
- 2024年6月21日に「**荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間**～北前船寄港地・船主集落～」の内容を充実させるものとして、**日本遺産(文化庁)に追加認定**されている。

## <北前船の寄港地 西大寺地区と西大寺観音院>



OKAYAMA  
SAIDAIJI  
西大寺

**北前船とは**  
江戸から明治にかけて日本海沿岸を行き来した大型商船で、北海道から大阪までの物資を運び、地域間の交流と経済の発展に大きく貢献した。この船によって日本各地の文化や風習が広まり、今日の日本文化の一部を形成したと言われている。



### 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間 ～北前船寄港地・船主集落～

日本海や瀬戸内海沿岸には、山を風景の一部に取り込む港町が点々とみられます。そこには、港に通じる小路が随所に走り、通りには広大な商家や豪壮な船主屋敷が建っています。また、社寺には奉納された船の絵馬や模型が残り、京など遠方に起源がある祭礼が行われ、節回しの似た民謡が唄われています。これらの港町は、荒波を越え、動く総合商社として巨万の富を生み、各地に繁栄をもたらした北前船の寄港地・船主集落で、時を重ねて彩られた異空間として今も人々を惹きつけてやみません。

- 北前船とは？**  
江戸時代中期（18世紀中ごろ）から明治30年代にかけて、大阪と北海道を、日本海回りで商品を売り買いしながら結んでいた商船群。寄港地で安いと思ふ商品があれば買い、それが高く売れる港では積み荷を売ってしまふながら、大阪と北海道の間を航海していました。
- 日本遺産「北前船寄港地・船主集落」認定地**  
16道府県52市町に及んでおり、岡山市では岡山市のほか、倉敷市、備前市の3市が認定されています。
- 日本遺産「北前船寄港地・船主集落」認定地**  
北海道小樽市 / 北海道石狩市 / 北海道函館市 / 北海道松前町 / 青森県野辺地町 / 青森県つがる市 / 青森県深浦町 / 秋田県能代市 / 秋田県男鹿町 / 秋田県秋田市 / 秋田県由利本荘市 / 新潟県新潟市 / 新潟県佐渡市 / 新潟県長岡市 / 新潟県出雲崎町 / 新潟県上越市 / 新潟県上市 / 富山県富山市 / 富山県高岡市 / 石川県輪島市 / 石川県志賀町 / 石川県金沢市 / 石川県白山市 / 石川県小松市 / 石川県加賀市 / 福井県坂井市 / 福井県南越前町 / 福井県敦賀市 / 福井県小浜市 / 福井県美浜町 / 京都府宮津市 / 大阪府大阪市 / 大阪府泉佐野市 / 兵庫県神戸市 / 兵庫県高砂市 / 兵庫県姫路市 / 兵庫県たつの市 / 兵庫県新温泉町 / 兵庫県赤穂市 / 兵庫県洲本市 / 鳥取県鳥取市 / 島根県浜田市 / 岡山県倉敷市 / 岡山県備前市 / 岡山県岡山市 / 香川県多度津町 / 広島県福山市 / 広島県竹原市 / 広島県安芸市

### 岡山市の日本遺産構成文化財 (全10件)



日本遺産 荒波を越えた男たちの夢が紡いだ異空間  
「北前船寄港地・船主集落」

出典:(一社)西大寺活性化協議会ウェブサイト

# 旧九幡港常夜灯の歴史的価値について

- 岡山県の近代化遺産として選定されており、地域の風土や生活に溶け込み、風景や環境になじんだ風格のあるものである。地域の人々に大事にされ、何度も復旧を繰り返しながら現在まで残されてきた。
- 吉井川の河口に位置するため、西大寺向かう北前船の航行にも重要な役割を果たしたと想定される。
- 岡山は瀬戸内海に沿って海岸線や島々が点在しているにもかかわらず洋式灯台がなく、近世由来の常夜灯が数多く残っている。中でも、旧九幡港常夜灯は規模が大きく、花崗岩の切石だけで築造されており、備前の伝統的な石工の技術が伺える。

## <堤防整備前の旧九幡常夜灯と町並み>



堤防整備前の九幡港常夜灯と町並み

**近代化資産とは**  
およそ幕末期から第二次世界大戦終了時にかけて、我が国が近代化を遂げる途上において、近代的手法を用いて築造された産業・交通・土木等にかかわる建築物・土木構造物・工作物などの建造物の総称のことである。  
岡山県教育委員会が、平成15年度・16年度の2力年で実施した『岡山県近代化遺産総合調査』の結果として選定している。

## <常夜灯の復旧の歴史>



出典：岡山県立記録資料館所蔵資料



出典：岡山県立記録資料館所蔵資料



傘部分の改築が確認できる  
出典：山陽新聞社提供資料



土台部分の改築が確認できる